

令和7年2月2日（日）《午前》

第13期Bコース研修生 「日本の近現代史①」



この講座は、日本の近現代史を3回に分けて学ぶ講座です。今回はその第1回で「日本の近現代史学習に当たって～歴史的事象を考察するための観点」、「近代国家日本の成立～開国から日清・日露戦争まで～」を学びました。

研修生は事前に、この時代に関する動画を視聴し、それを踏まえて事前に出された課題を複数の資料で調べ自分の考えをまとめて提出しました。事前課題の内容は以下のとおりです。

事前課題1

日本の近現代における「近代国家日本の成立～開国から日清・日露戦争まで～」の歴史的事象について「歴史的見方・考え方」を働かせて調べたうえで、説明できるようにワークシートに自分の言葉で整理し表現してみよう。

事前課題2

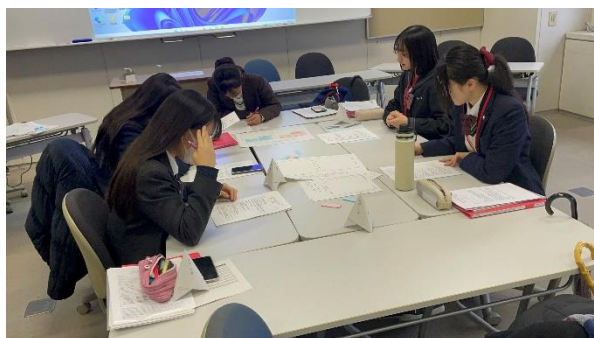
明治時代、我が国は、欧米列強の植民地になることなく近代国家としての道を歩んだ。この明治期の近代国家への歩み、或いは、その歩みの中で創造された日本文化を捉えて、どのような「問い」留学した際に出会う人々から出されるか、予測してみよう。

2つの事前課題とも「自由・制限」「平等・格差」「開発・保全」「統合・文化」「対立・協調」などの観点を踏まえて考え、記述する課題です。

当日の講義は、研修生たちは3クラスに分かれ、各々のクラスで、自分たちが取り上げた歴史的事象に共通性がある者同士3～5名でグループをつくります。まず、グループ内で歴史的事象を発表・協議をし、次に全体の場で発表・協議するという流れで行われます。「明治維新」「開国と鎖国のメリット・デメリット」「明治維新による社会の変化」「岩倉使節団に同行した女子留学生」など、様々なテーマについて研修生たちは、意見を出し合いながら、我が国の近代化の過程における人々の努力や苦勞、また近代国家として発展していく我が国の成果と課題を、積極的に協議して、日本の近現代史への認識を深めていきました。

令和7年2月2日（日）《午後》

第13期Bコース研修生 「ゼミナール①」



この講座は、地球規模の課題等に対してどのようにアプローチし、その当事者として解決に関わるために、自分の興味・関心のある分野で研究を行います。留学前、4回の講座と2回のオンラインによる面談を行いながら、テーマの設定理由（なぜこのテーマを選んだのか）、研究の目的（～を解決するため、～を改善するため、～を発展させるため、など）を明確にしながら研究を進めていきます。研修生は留学先でも文献や聞き取り調査、アンケートなどを行い、テーマにつながる現状を調べて研究を続け、その研究内容をまとめ、「ゼミナール研究報告書」として提出し、自分の研究を完成させます。

本年度からは、自分のアプローチする課題により主体的に取り組むことができるように、事前研修の中で「問い」と「仮説」を研修生同士で考えることを大切にしています。

本日、ゼミナール研究の第1回目の研修では、5人のグループに分かれて、これまでの面談等による指導を通して、考え、整理してきた研究テーマ、そのテーマの設定理由、更に研究の目的についてグループ内で一人一人発表を行います。そして、その後の協議では、グループ内の研修生から助言等をもらうことにより、自身の取組をより明確にしました。

研修生たちは、グループ協議を通して、個々のテーマを客観的に捉え、深めることができました。次回の研修では、研究のアウトラインや今後進める調査方法について協議することになります。そして、今日の研修を振り返りシートを活用し、今後の取組の更なる向上につながるようにしました。